

フランス語の tout sauf・英語の anything but・ ドイツ語の alles andere als

平 塚 徹

要 旨

フランス語では、近年、強い否定を表す tout sauf という成句の使用が増加している。この成句は、その構成および意味において、英語の anything but やドイツ語の alles andere als とよく似ている。本稿では、これらの成句とそれに後続する語彙の共起頻度を調査する。いずれの言語の成句についても、このような調査を行なった先行研究はない。

本稿では、この調査から、以下の結論に至った。フランス語の tout sauf は、特定の語彙との共起頻度が高く、これが中心になって使用頻度を増加させている。しかし、英語の anything but は、かつては特定の語彙と結びついて使用頻度を増加させたものの、現在においては、特定の語彙との結びつきは弱くなっている。ドイツ語の alles andere als は、フランス語の tout sauf よりは古くからあるが、特定の語彙との結びつきが強く、英語の anything but のような段階には達していない。

キーワード：成句、強い否定、コーパス、共起頻度、対数尤度比

1. はじめに

近年、フランス語において、tout sauf という成句の使用が増加している。tout は「全て」という代名詞であり、sauf は「～を除いて」という意味なので、構成的には「～を除いて全て」という意味になる。しかし、tout sauf 全体で、強い否定を表す表現が目につくようになった。

- (1) C'est tout sauf un hasard.

それは少しも偶然ではない。

tout sauf の本来の意味から考えると、名詞句が後続するはずであるが、この成句はしばしば形容詞も取るようになっていく。

- (2) C'est tout sauf simple.

それは少しも簡単ではない。

この成句の増加は最近のことで、辞書を見てもまだ登録されていない。tout sauf simple と tout

sauf un hasard の相対頻度の経年変化を Google Ngram Viewer¹⁾ で調べると、それぞれの増加が近年のことであることが分かる (smoothing は 3)。

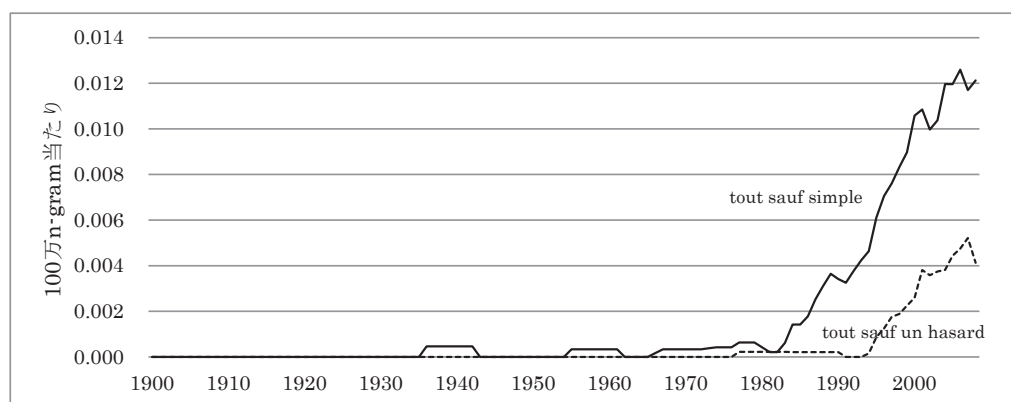


図1 tout sauf simple と tout sauf un hasard の相対頻度の変化 (Google Ngram Viewer)

先行研究は多くない。Muller (1991: 140-141) は, tout sauf を否定表現として取り上げた。Piot (2005) は, sauf を前置詞とする伝統的な品詞分類に対して, むしろ接続詞であるとした。そして, Muller の tout sauf を否定表現とする考えを批判し, 量化詞 tout と除外を表す接続詞 sauf に還元して説明している。しかし, この議論は, 記述の経済性を重視し, 規則によって説明できる事柄を理論から排除するという方法論的前提に依拠するものである。これは, Langacker (2000) が「規則とリストの誤謬」(rule/list fallacy) と呼んで批判したものである。本稿は, ある表現が一般的な規則から予測されても, 使用頻度の高いものは定着しており, 規則に還元されずに話者の言語知識を構成しているとする用法基盤モデルに依拠している。tout sauf について量化詞 tout と接続詞 sauf を組み合わせて説明できたとしても, tout sauf 全体が高頻度で用いられている状況は, それがフランス語話者の言語知識の中にひとかたまりのものとして登録されていることを示している。本稿では, 用法基盤モデルを前提として, tout sauf と共起する語の頻度を調査する。これによって, この成句に特定の語彙項目を含む中核的な用法があることを示す。

フランス語の tout sauf は, 構成についても, 意味についても, 英語の anything but を彷彿とさせる。anything は「何でも」, but は「～を除いて」という意味なので, anything but は, 構成的には「～を除いて何でも」という意味になる。しかし, 成句として「少しも～でない」という意味でも用いられる。OED2 では, この成句の初出例はワーズワースの『序曲』(1805-6)である。

- (3) Grief call it not, 'twas anything but that. (Wordsworth, *Prelude*)

形容詞を従えた初出例は 1897 年である。

- (4) The anything-but-particular denominationalists. (*Westminster Gazette*, 1 Oct. 2/1)

よく知られた成句であるが、先行研究は特に見当たらない。本稿では、anything but についてもコーパスに基づいて後続する語との共起頻度を調査する。

また、ドイツ語にも、やはり、非常によく似た alles andere als という成句が存在する。alles は「全て」という代名詞、andere は「他の」という形容詞、als は「～より」という接続詞であり、構成的には「～より他の全て」となる。しかし、全体で、「決して～でない、～どころではない」という意味の成句としても用いられる。これも、辞書に登録されており、フランス語の tout sauf よりも以前から使用されている。この先行研究としては、Harweg (2014) がある。Harweg は、否定の肯定的な言い換えとして alles andere als を取り上げ、その非構成性について検討している。本稿では、alles andere als についてもコーパスを用いて後続する語との共起頻度を調査する。

最後に、各言語の調査から得られた結果を比較し、結論を導き出す。

2. フランス語の tout sauf

LexisNexis Academic²⁾ のフランス語ニュースデータベースを用いて、tout sauf の用例を採取した。ソースは Le Monde.fr と Le Figaro, 期間は 2017 年 7 月から 2019 年 6 月までで検索した。tout と sauf がコンマで区切られている用例や明らかに重複している用例を除外し、最終的に 585 例を採取した。

2.1. 形容詞

tout sauf の後に形容詞が生起していたのは 257 例で、採取した 585 例の 44% にのぼる。異なり語数は 146 語で、特に共起頻度の高い語は表 1 の通りである。これ以外の形容詞は共起頻度が 4 回以下となる。なお、フランス語の形容詞は性・数によって形態が変化するが、ここでは基本形 (lemma) にまとめている。

表 1 共起頻度の高い形容詞

順位	形容詞	頻度	比率
1	anodin (些細な)	26	10%
2	simple (簡単な)	13	5%
3	évident (明白な)	10	4%
3	négligeable (無視できる)	10	4%
5	anecdotique (瑣末な)	7	3%
5	facile (容易な)	7	3%
5	neutre (中立的な)	7	3%

最も頻度の高い anodin (些細な) で、26 回生起しており、形容詞が生起している 257 例の 10% に相当する。上位 4 語を合計すると 59 例で 23%、上位 7 語を合わせると 80 例で 31% になる。このように、tout sauf の後に後続する形容詞は著しく偏っている。

これは、新聞から採取したデータを集計した結果であるので、ジャンルによる偏りが疑われるかもしれない。また、ある形容詞が tout sauf の後で出現頻度が高くても、その形容詞がもとも単独でも出現頻度が高ければ、それによって tout sauf の後でも出現頻度が高くなっている可能性がある。これらの点を、コーパス検索ツール Sketch Engine³⁾ を用いて検証した。2017 年にフランス語のウェブから採取されたコーパス frTenTen17 で、tout sauf に後続する語を調べた。語は基本形 (lemma) でまとめた。まず頻度順にソートして、形容詞だけを取り出した。

表 2 共起頻度の高い形容詞 (frTenTen17)

順位	形容詞	共起頻度
1	anodin (些細な)	246
2	neutre (中立的な)	213
3	évident (明白な)	157
4	simple (簡単な)	155
5	facile (容易な)	104
6	naturel (自然な)	100
7	clair (明快だ)	93
8	anecdotique (瑣末な)	83
9	innocent (無邪気な)	68
10	négligeable (無視できる)	66

これを見ると、表 1 の形容詞は順番が異なるものの上位 10 位までに出てきている。よって、これらの形容詞の共起頻度が高いのは、新聞というジャンルに限らないことと言える。次に、対数尤度比 (log-likelihood ratio)⁴⁾ の降順にソートしたところ、表 1 の形容詞は上位 8 位までに収まった。

表3 対数尤度比の高い形容詞 (frTenTen17)

順位	形容詞	対数尤度比	共起頻度	単独頻度
1	anodin (些細な)	3,480.33	246	31,587
2	neutre (中立的な)	2,332.56	213	134,853
3	évident (明白な)	1,405.95	157	269,764
4	anecdotique (瑣末な)	1,037.75	83	24,093
5	simple (簡単な)	837.27	155	1,607,020
6	innocent (無邪気な)	663.91	68	77,692
7	négligeable (無視できる)	654.08	66	70,053
8	facile (容易な)	633.57	104	756,705

このことは、これらの形容詞が、単独頻度を考慮しても、tout sauf との共起頻度が高いことを示している。いずれの形容詞も tout sauf と共起関係が強いのである。

表1に戻って、共起頻度の高い形容詞を見ていく。最も頻度が高いのは、anodin (些細な)である。

- (5) Le dossier est tout sauf anodin (*Le Figaro*, samedi 5 août 2017)
問題は少しも些細なものではない。

この形容詞は重要度の低さを表しているが、négligeable (無視できる) や anecdotique (瑣末な) も重要度の低さを表していて、類義的である。

- (6) Pour le gouvernement et le président, le risque de cette grogne est tout sauf négligeable.
(*Le Monde.fr*, vendredi 16 mars 2018)
政府と大統領にとって、この不平不満の危険性は少しも無視できない。
- (7) Mentionner la Corse dans la Constitution ? Ce serait tout sauf anecdotique (*Le Figaro*, lundi 12 février 2018)
憲法でコルシカに言及する？それは少しも瑣末なことではないだろう。

simple (簡単な) と facile (容易な) もお互いに類義的である。

- (8) Ici encore, la manipulation est tout sauf simple. (*Le Monde.fr*, mardi 19 septembre 2017)
ここでもまた操作は少しも簡単ではない。
- (9) Gagner un tournoi du Grand Chelem, c'est tout sauf facile. (*Le Figaro*, jeudi 9 août 2018)
グランドスラムの大会で勝つことは、少しも容易なことではない。

évident（明白な）も、否定文ではしばしば「簡単だ」という意味になるために、やはり、類義的である。

- (10) En France, demander à partir d'un restaurant en emportant son petit sac de « restes » est tout sauf évident. (*Le Monde.fr*, samedi 1 juin 2019)

フランスでは、レストランから残り物の小さな袋を持って出て行きたいと言うのは少しも簡単ではない。

このように、tout sauf とよく用いられる形容詞には、重要度の低さや容易さを表すものが多く見られる。

tout sauf は強い否定を表す表現として形容詞と共に頻繁に使われるが、どのような形容詞とも同じように使われるわけではなく、anodin（些細な）⁵⁾ や simple（簡単な）のような特定の形容詞と好んで使われる。これらの形容詞は、重要度の低さや容易さという特定の意味領域のものが多。このような特定の形容詞が tout sauf と使用頻度の高いコロケーションを作り、《tout sauf + 形容詞》というパターンの増加を牽引していると考えられる。

2.2. 限定辞付き名詞

tout sauf の後に限定辞を伴う名詞が続く場合は 242 例あり、採取例全体 585 例の 41% になる。限定辞毎に集計すると、以下の表ようになる。

表 4 限定辞毎の頻度

限定辞	頻度
不定冠詞	195
定冠詞	34
部分冠詞	11
所有形容詞	2
指示形容詞	1
総計	243

不定冠詞付きの名詞句が 80% を占める。その内の 94% に当たる 183 例が単数である。これらの不定冠詞つき単数名詞は、異なり語数で 115 語あった。そのうち共起頻度の高い名詞は以下の通りである。

表 5 共起頻度の高い不定冠詞付き単数名詞

順位	名詞		頻度	比率
1	surprise	(驚き)	29	16%
2	hasard	(偶然)	19	10%
3	partie	(遊び)	4	2%
4	détail	(細部)	3	2%
4	évidence	(明白なこと)	3	2%
4	fleuve	(川)	3	2%

共起頻度 1 位の surprise (驚き) と 2 位の hasard (偶然) が群を抜いて多い。両者を合わせると 48 例で、不定冠詞付き単数名詞 183 例の 26% になる。

- (11) Cette décision est tout sauf une surprise. (*Le Monde.fr*, vendredi 11 janvier 2019)
この決定は少しも驚きではない。
- (12) Sa nomination est tout sauf un hasard (*Le Monde.fr*, lundi 25 juin 2018)
彼の任命は少しも偶然ではない。

Sketch Engine の frTenTen17 で、tout sauf の右 2 語目の共起語を調べ、対数尤度比の降順にソートしたところ、名詞ではこの 2 語が上位を占め、それ以外ははるかに低い数値だった。

表 6 対数尤度比の高い形容詞 (frTenTen17)

順位	名詞	対数尤度比	共起頻度	単独頻度
1	surprise	940.83	116	304.307
2	hasard	796.69	95	216.819

この 2 語以外は、それぞれデータが少ないが、実際の用例を見ると、意味的な傾向を見て取ることができる。partie (遊び) の 4 例のうち、3 例は partie de plaisir (苦もなくやれること) という熟語で出てきている。

- (13) [...] ce sera tout sauf une partie de plaisir pour les Britanniques. (*Le Figaro*, mardi 19 décembre 2017)
それはイギリスにとって少しも簡単なことではないだろう。

これは、結局、簡単ではないと言うことを表している。

fleuve (川) の 3 例は、全て、long fleuve tranquille (長く静かな川) という表現で出てきて

おり、文字通りの川を指してはいない。

- (14) La vie à Jelenia Gora, [...], est pourtant tout sauf un long fleuve tranquille. (*Le Monde.fr*, vendredi 10 août 2018)

イエレニャ・グーラでの生活は、それでも、少しも長く静かな川ではない。

これは、*La vie est un long fleuve tranquille* (『人生は長く静かな川』)という映画のタイトルを踏まえた表現であり、簡単なものではないということを比喩的に表している。

évidence (明白なこと)も、簡単でないことを表すのに用いられる。

- (15) Parvenir à un compromis, à vingt, dans le dossier de la lutte contre le réchauffement climatique, était tout sauf une évidence après l'annonce du président des Etats-Unis Donald Trump, le 1^{er} juin, de retirer son pays de l'accord de Paris. (*Le Monde.fr*, dimanche 9 juillet 2017)

温暖化対策問題において 20 カ国で妥協に至るのは、アメリカ大統領ドナルド・トランプが 6 月 1 日にパリ協定からアメリカが離脱することを発表した後では、少しも簡単なことではなかった。

これらの用法は、tout sauf の後に形容詞 simple (簡単な), facile (容易な), évident (明白な)を伴って簡単でないことを表す用法と意味的に類似している。

détail (細部)についても、重要度の低さを表す名詞なので、形容詞 anodin (些細な), négligeable (無視できる), anecdotique (瑣末な)と類義的である。

さらに、頻度が 1 回の名詞においても、tout sauf と高頻度で共起する形容詞に修飾されている場合がある。

- (16) Changer de nom est tout sauf un acte anodin. (*Le Monde.fr*, mardi 13 mars 2018)

名称を変更することは少しも些細なことではない。

- (17) Car la thyroïde, [...], est tout sauf un organe simple ! (*Le Monde.fr*, vendredi 27 octobre 2017)

というのは、甲状腺は少しも簡単な器官ではないからだ！

- (18) Le logement est tout sauf un secteur négligeable pour l'économie et les finances publiques. (*Le Monde.fr*, jeudi 16 août 2018)

住宅は経済と財政にとって少しも無視できる産業部門ではない。

このように tout sauf の後に名詞が来る場合でも、出現する名詞に大きな偏りが見られるだけでなく、形容詞の場合と類似した意味の表現が多く見られる。tout sauf は単に強い否定を表す成句ではなく、特定の意味の場合に頻繁に使われているのである。

2.3. 固有名詞

tout sauf の後に固有名詞が来るものは 40 例で、採取例全体 585 例の 7% にとどまる。ほとんどの場合、《tout sauf + 固有名詞》全体で、固有名詞で指示されるものに対する強い拒否を表すスローガンになっている場合が多い。特に、固有名詞が政治家の名前である場合が目につく。

- (19) L'heure du « tout sauf Bibi ! » a sonné en Israël [...](*Le Figaro*, vendredi 22 février 2019)
「ビビ反対！」の時がイスラエルに来了。(ビビ：イスラエルの首相ベンヤミン・ネタニヤフの愛称)

この例のように前に定冠詞が付くものが 12 例、不定冠詞が付くものが 8 例、部分冠詞がつくものが 1 例あった。合わせると冠詞がついているものが 21 例で、固有名詞が続く場合の 40 例の半分以上を超える。このことは、《tout sauf + 固有名詞》全体で複合名詞として機能していることを示している。

もともと tout sauf が強い否定を表すことから、《tout sauf + 固有名詞》がその固有名詞の指示対象に対する強い拒否を表すスローガンとして使用され、更にはその指示対象に反対することを表す複合名詞になったものと考えられる。

なお、前節で《定冠詞 + 名詞》に算入した用例の中には、固有名詞の場合と同様に扱うべきものがあつた。次の例は、スローガンであることが明示的に示されている。

- (20) Mot d'ordre : Tout sauf les communistes ! (*Le Monde.fr*, jeudi 21 février 2019)
スローガンは、「共産党反対！」だ。

次の例では、《tout sauf + 名詞句》全体が名詞になり、定冠詞を取っている。

- (21) Euphorique, la Bourse a salué les derniers sondages par sa plus forte hausse en deux ans. Au nom du « tout sauf le PT », qui veut relancer une économie atone par plus d'investissements et de dépenses sociales alors que les comptes sont au rouge. (*Le Figaro*, samedi 6 octobre 2018)

株式市場は、高揚感の中、最近の調査を 2 年間で最大の上げ幅で迎えた。「労働者党反対」の名の下で。同党は、収支が赤字なのに、さらなる投資と社会保障への支出で活力のな

い経済を活性化しようとしているのである。

このような tout sauf の用法は、《tout sauf + 形容詞》や《tout sauf + 不定冠詞 + 名詞》における用法とは、意味的にも、統語的にも、異なったものである。

2.4. 前置詞句

前置詞句を伴う用例は 29 例で、採取例全体 585 例の 5% にすぎない。その内、24 例において、前置詞句が先行する動詞、形容詞、名詞によって要求される項であった。前置詞の内訳は以下の通りである。

表 7 前置詞句が項である場合の前置詞の内訳

前置詞	頻度
de	13
à	10
pour	1
合計	24

この場合、全ての用例において、tout sauf の前後で前置詞の反復が見られる。

- (22) J'écrivais toute la journée, et, le soir, j'avais envie de tout sauf de discuter littérature. (*Le Monde.fr*, vendredi 3 mai 2019)

私は一日中執筆していて、それで、晩には少しも文学について議論したくなかった。

残りの 5 例は、全て、être の補語であり、前置詞の反復はない。4 例においては、à la mode（流行りの）、à la retraite（引退している）、de gauche（左翼の）、à la hauteur de（～に比べられる）のような形容詞的な熟語が用いられている。

- (23) A l'époque, on trouvait que mon écriture n'était pas assez urbaine. J'étais tout sauf à la mode. (*Le Monde.fr*, lundi 17 décembre 2018)

当時、私の書き方はあまり都会的ではないと思われていた。私は少しも時流に乗っていませんでした。

残りの 1 例は、《de + 不定詞》であり、不定詞を名詞句として機能させるための形式である。

- (24) La décroissance c'est tout sauf l'austérité, c'est tout sauf de faire la même chose en moins. (*Le Monde.fr*, jeudi 13 décembre 2018)

反成長は少しも緊縮ではない、少しも同じことをするのをやめることではない。

データ数が少ない上に、いずれも、それぞれの前置詞のよくある用法であり、共起語について特徴的なことは見当たらない。

2.5. その他

以上の他に、代名詞を伴うものが9例、無冠詞名詞を伴うものが6例、不定詞を伴うものが1例あったが、用例が少ないので、本稿ではこれ以上触れない。

2.6. tout sauf についてのまとめ

tout sauf は、強い否定を表す成句であるが、anodin（些細な）や simple（簡単な）のような特定の形容詞、une surprise（驚き）や un hasard（偶然）のような特定の名詞句を伴う場合が多い。また、それ以外でも、容易さや重要度の低さを表す表現が目立つ。tout sauf と共起する語彙に偏りが見られることは、頻度の高い特定のコロケーションが定型表現として tout sauf の使用の増加を牽引していることを示していると考えられる。また、意味的に類似した用例が見られることは、定型表現を中心に、意味的な類推によって他の表現の使用が促されていることを示唆している。

また、強い否定を表すことから、固有名詞等と共に用いて、その指示対象を拒否することを表す用法も発達している。

なお、前置詞句を従える場合には、先行する語の項になっていると、前置詞の反復が見られる。

3. 英語の anything but

本章では、英語の成句 anything but（少しも～ない）に後続する語の共起頻度を調査する。コーパスは主に COCA (Corpus of Contemporary American English)⁶⁾ を使用する。ここで注意を要するのは、構成的な「～以外何でも」という用法の anything but もあることである。この場合、anything がいわゆる否定極性項目 (negative polarity item) として機能している。否定極性項目としての anything については、生起する環境が分かっている（例えば、Giannakidou (2002) を参照されたい）。このような環境に生起している anything but は、否定極性項目を含み、構成的なものである可能性が高い。逆に、否定極性項目の anything が生起しない環境に生起している anything but は成句的なものであろうと考えられる。

3.1. 形容詞

先ず, anything but に後続する形容詞を見る。そのために, COCA で, 《anything but + 形容詞》のパターンを検索した。後続する形容詞の延べ語数は 1865, 異なり語数は 869 であった。特に共起頻度の高い形容詞は以下の通りである (8 位以降は頻度が 16 回以下である)。

表 8 共起頻度の高い形容詞 (COCA)

順位	形容詞	頻度	比率
1	easy	42	2.3%
2	simple	40	2.1%
3	ordinary	33	1.8%
4	good	28	1.5%
5	normal	26	1.4%
6	clear	25	1.3%
7	quiet	20	1.1%

4 位の good のように, もともと単独での出現頻度の高い形容詞の場合には, それによって共起頻度が高くなっていることも考えられる。そこで, 対数尤度比を計算し, 降順でソートした (anything の頻度数は 6045, コーパスの総語数は 570353748)。

表 9 対数尤度比の高い形容詞 (COCA)

順位	形容詞	対数尤度比	共起頻度	単独頻度
1	ordinary	269.27	33	19559
2	simple	248.19	40	63686
3	easy	244.84	42	80960
4	normal	157.92	26	44192
5	quiet	117.89	20	37226
6	boring	117.05	14	7488
7	dull	109.20	13	6818
8	smooth	106.22	16	20396
9	clear	104.95	25	111754
	:	:	:	:
26	good	46.96	28	510521

good は, 対数尤度比が低く, 26 位に順位を下げた。しかし, 表 8 の他の形容詞は, 上位 9 位までに残った。これらの形容詞は anything but と強い共起関係にあると言える。

表 8 は, 《anything but + 形容詞》のパターンを検索した結果だったが, これは形容詞が更に後続する名詞を修飾している用例も含んでいる。

- (25) She was not destined for anything but ordinary mistakes, common misunderstandings.
(COCA Fiction)
- (26) "I can't say anything but good things about the rowers," Thelma Long said. (COCA News)

実際に例文を見ると、これらは anything but が形容詞ではなく、名詞句を取っていると考えべきものが目に付く。しかも、否定などの否定極性項目の anything が可能な文脈における構成的な anything but が多い。そこで、《anything but + 形容詞 + 名詞》のパターンを除外することにした。このパターンを検索したところ、292 例ヒットした。それぞれの頻度数を形容詞毎にまとめて集計し、《anything but + 形容詞》の形容詞毎の頻度数から引いた。その結果、例えば、good の場合、anything but good が 28 件あったのに対して、《anything but good + 名詞》が 14 件あったため、good の頻度は差し引き 14 件となった。その結果得られた形容詞は、異なり語数 739、延べ語数 1573 であった。特に共起頻度の高い形容詞は以下の通りである（7 位以降は頻度が 14 回以下である）。

表 10 共起頻度の高い形容詞 [名詞が後続するものを除く] (COCA)

順位	形容詞	頻度	比率
1	easy	42	2.7%
2	simple	40	2.5%
3	ordinary	31	2.0%
4	clear	25	1.6%
5	normal	22	1.4%
6	quiet	20	1.3%

フランス語の表 1 と比較すると、英語では上位の形容詞の出現頻度の割合が低い。例えば、フランス語 1 位の anodin は 10% であるのに対して、英語 1 位の easy は 2.7% である。このことは、英語ではフランス語に比べて語彙的な偏りが少ないことを示している。しかし、これらの形容詞は対数尤度比も高いので、anything but との共起関係が無いわけではない。

上位 2 語の easy と simple は、フランス語で出現頻度の高い facile（容易な）や simple（簡単な）と同様の意味である。

- (27) But reintroducing endangered species is anything but easy. (COCA Newspapers)
- (28) The situation is anything but simple. (COCA Magazines)

また、ordinary と normal のように互いに類義的な形容詞も見られる。表 9 の対数尤度比の高い

形容詞の中でも, boring と dull は類義的である。英語の anything but と共起する形容詞は, フランス語の tout sauf ほどではないが, 共起する形容詞に語彙的な偏りがある。

3.2. 歴史的変遷

英語の anything but に後続する形容詞の歴史的変遷を見るため, COHA (Corpus of Historical American English) ⁷⁾ で調査した。COCA での調査の際と同様に, 形容詞毎に, 《anything but + 形容詞》での出現頻度から《anything but + 形容詞 + 名詞》での出現頻度を引いて集計した。以下の表では, 共起頻度の特に高かった 4 語のみを挙げ, その他はひとつにまとめた (good と gold がそれぞれ合計 29 回生起しているのに対して, 5 位以下は 14 回以下に半減する)。

表 11 形容詞の共起頻度の変化

形容詞	1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
pleasant			1		4	1	4		6	5	2	4		2						3
agreeable				5	6	3	4	3	4	3	2				1					
good					2	1	3	2	1	3	2	5	1	2	1		4	2		
gold	1				2	14	2	2	1			2	1	1			2		1	
その他		2	11	28	35	26	61	74	53	82	83	81	65	64	59	59	63	69	87	93
合計	1	2	12	33	49	45	72	81	65	92	88	92	67	69	61	59	69	71	91	93

gold について, 実際に用例を見ると, 29 例中 19 例が名詞であり, 品詞タグが誤っていた (14 例が anything but gold and silver というパターンだった)。また, 残りの 10 例は形容詞であったが, 全て anything but gold and silver coin というパターンで, 後続の名詞 coin を修飾するものであった。しかも, 29 例のいずれもが否定極性項目の anything を含む構成的な用例であった。実は, 29 例中, 26 例 (名詞 18 例, 形容詞 8 例) が, アメリカ合衆国憲法で州が金貨および銀貨以外のものを債務弁済の法定手段にすることができないと規定されていることを踏まえた特殊な用例だった。

共起頻度 1 位の pleasant が 1850 年代から 1920 年代に, 2 位の agreeable が 1840 年代から 1910 年代に集中していることが注目に値する。

- (29) It need not be said that the result is anything but pleasant. (COHA 1862)
- (30) But, nevertheless, it is anything but agreeable to be haunted by a suspicion that one's intellect is dwindling away; (COHA 1850)

これら二つの形容詞が頻出している時期は, 《anything but + 形容詞》全体が増加して行った時期に当たる。表 11 は粗頻度なので, 《anything but + 形容詞》の百万語当たりの頻度を計算し

てグラフにすると以下ようになる（ただし、gold は計算から除外した）。

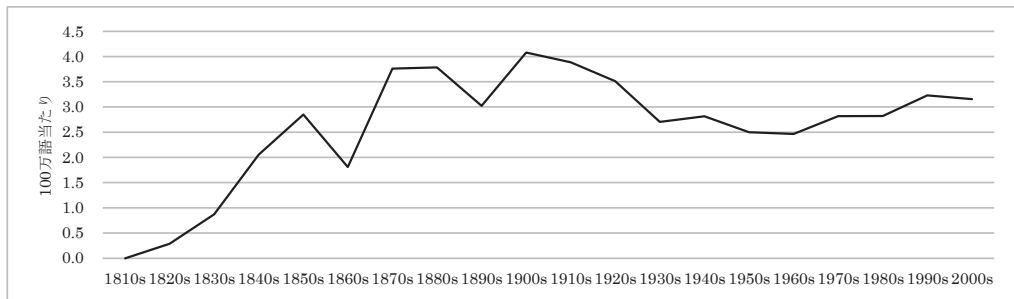


図2 《anything but + 形容詞》全体の生起頻度の変化 (COHA)

1840年代から1900年代の70年間に出現した形容詞は、異なり語数242、延べ語数416で、出現頻度の高いものは以下の通りである。

表12 出現頻度の高い形容詞 (1840s-1900s)

形容詞	頻度	比率
agreeable	28	6.7%
pleasant	20	4.8%
good	12	2.9%
satisfactory	10	2.4%
encouraging	8	1.9%
favorable	8	1.9%
complimentary	8	1.9%

agreeable や pleasant の比率の高さが目立つ。

他方、1940年代から2000年代の70年間に出現した形容詞は、異なり語数360、延べ語数509で、出現頻度の高いものは以下の通りである。

表13 出現頻度の高い形容詞 (1940s-2000s)

形容詞	頻度	比率
good	9	1.8%
ordinary	8	1.6%
simple	7	1.4%

1840年代から1900年代に比べて、語彙的な偏りが減少したことが分かる。

さらに、Google Ngram Viewerで、《anything but + 形容詞》のパターンの歴史的変化を調

べたところ、以下のグラフになった（smoothing は 20）。

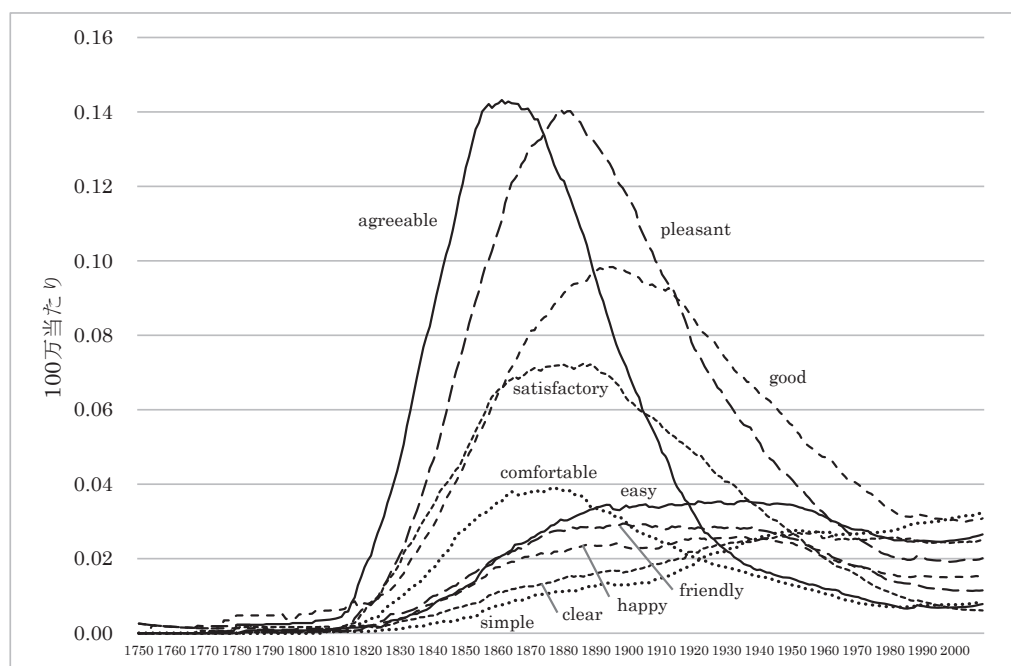


図3 《anything but + 形容詞》の形容詞別の生起頻度の変化（Google Ngram Viewer）

かつては、agreeable, pleasant, satisfactory, comfortableが多かったことが確認できる。《anything but + 形容詞》はこのような特定の形容詞によるものを中核として使用が増加して行ったものと推測される。

3.3. 冠詞付き名詞

COCAで《anything but + 冠詞 + 名詞》のパターンを検索した。検索結果の599件を、不定冠詞を含むものと定冠詞を含むものに仕分けした上で、それぞれ集計した。

不定冠詞を伴うものは379件、異なり語数は326語であった。共起頻度の高い語は以下の通りである。

表 14 共起頻度の高い不定冠詞付き名詞

名詞	頻度	比率
accident	5	1.3%
friend	4	1.1%
success	4	1.1%
victim	4	1.1%
woman	4	1.1%

1位の accident でも 5 回であり、共起頻度はあまり高くない。また、用例を観察すると、否定極性項目の anything を含む構成的な用例が混じっている。それらを除くと、成句的な anything but の用例は以下の 2 つとなる。

- (31) The early twentieth-century reconception of meter and scansion as supernumerary to both composition and reading was anything but an accident; (COCA Academic)
- (32) "Accident?" Margaret erupted. "Julia was anything but an accident. [...]" (COCA Fiction)

同様に、他の名詞についても、構成的な anything but の用例が見られ、成句的な anything but に該当する用例の数は少ない。そのため、頻度は総じて低く、語彙的な偏りもあるとは言えない。これは、フランス語の tout sauf に続く不定冠詞付き名詞において、surprise（驚き）が 16% を、hasard（偶然）が 10% を占めていたことと著しく対照的である。

定冠詞を伴うものは 220 件で、異なり語数は 173 語であった。共起頻度の高い名詞は以下の通りである。

表 15 共起頻度の高い定冠詞付き名詞

名詞	頻度	比率
truth	18	8.2%
game	5	2.3%
clothes	4	1.8%
economy	3	1.4%
girl	3	1.4%
face	3	1.4%
weather	3	1.4%

truth が突き抜けて多いが、否定極性項目を含む構成的な anything but が多く、成句的な anything but の用例と考えられるのは、(33) を含む 4 例に過ぎない。

- (33) Like most media tropes, this is anything but the truth. (COCA Magazines)

game についても、ほとんどが構成的であり、成句的な用例は、ひとつだけである。

- (34) When he leaves the clubhouse, Gagne discusses anything but the game, he said, because that is too mentally draining. (COCA Newspapers)

clothes の 4 件についても、全て構成的であり、成句的な用例はない。よって、成句的な anything but に後続する定冠詞付き名詞にも、頻度の高いものがあるとは言えない。

3.4. 無冠詞普通名詞

《anything but + 普通名詞》のパターンを検索した。後続する普通名詞は延べ語数で 633, 異なり語数で 463 だった。共起頻度の高い名詞は以下の通りである。

表 16 共起頻度の高い無冠詞普通名詞		
無冠詞普通名詞	頻度	比率
routine	25	3.9%
money	9	1.4%
contempt	8	1.3%
death	8	1.3%
business	6	0.9%

routine が 25 件と群を抜いて多い⁸⁾。用例を見ていくと、It turned out to be anything but routine. という文が、Magazines で 2 回、Newspapers で 1 回、合計 3 回出現しているのも目を引く。

- (35) The last item on my checklist of things to do was to keep a routine appointment with my primary-care physician. It turned out to be anything but routine. (COCA Magazines)

しかし、それ以外は、頻度がかなり少ない。その上、構成的な anything but も混じり、成句的な anything but の頻度は低い。また、意味的にも特に傾向は見られない。

3.5. 固有名詞

《anything but + 固有名詞》のパターンを検索した。後続する固有名詞は、延べ語数で 74, 異

なり語数で68であった。そのうち、6語がそれぞれ2回ずつ、残りは全て1回ずつの生起で、語彙的な偏りは無い。なお、フランス語の tout sauf と同じように、《anything but + 固有名詞》で、その固有名詞の指示対象に対抗することを表す用例もあった。

- (36) The new team must avoid the temptation to copy the early Bush administration's "anything but Clinton" approach to policymaking. (COCA Academic)

この例では、引用符がついて、全体として後続する名詞を修飾している。

このような anything but は、成句的ではあるが、また異なった用法である。

3.6. 単独用法

英語の anything but は、フランス語の tout sauf と異なり、後続の語を省略できる。そこで、《anything but + ピリオド》のパターンを検索したところ、297件ヒットした。

- (37) So while a tan may look healthy, it's anything but. (COCA, Magazines)

さらに、anything but は単独でも使用できる。

- (38) But Mrs. Kahn is not, it turns out, at all like Binnie. Not at all. Anything but. (COCA Fiction)

これは、フランス語の tout sauf には見られない用法である。

3.7. anything but についてのまとめ

英語の anything but は、フランス語の tout sauf に比べて、後続する形容詞に語彙的な偏りが少ない。ただ、その中でも出現頻度の高い形容詞が easy と simple であることは、フランス語の tout sauf の後で simple (簡単な) や facile (容易な) の頻度が高かったことと類似していると言える。しかし、anything but の使用が増加した時代には、agreeable や pleasant などの形容詞の共起頻度が高く、この成句の使用増加を牽引したと考えられる。なお、冠詞付きの名詞や無冠詞普通名詞が続く場合には、成句的な用法は少ない。

固有名詞を従えてその指示対象に対抗することを表す用法があることは、フランス語の tout sauf の場合に類似している。しかし、単独用法があることは、フランス語の tout sauf とは異なる。

4. ドイツ語の *alles andere als*

本章では、ドイツ語の成句 *alles andere als* に後続する語の共起頻度を調査する。マンハイムのドイツ語研究所 (Institut für Deutsche Sprache) のコーパス調査分析システム COSMAS II を利用した。品詞を指定して検索するために、タグ付きの TAGGED-C2 を選択した。これは、概ね 2010 年 1 月から 2014 年 6 月にかけて発行された新聞のコーパスを集めたものである。なお、ドイツ語の *alles andere als* の場合も、検索結果の中に構成的なケースが混入してくることがある。ただし、英語の場合とは異なり、「～を除いて全て」という意味である。

4.1. 形容詞

《*alles andere als* + 形容詞》のパターンを検索した。ドイツ語の形容詞は性・数・格による変化形があるが、それらを基本形 (lemma) にまとめずに、語形 (wordform) のまま集計したところ、延べ語数 12739、異なり語数 2263 の形容詞が得られた。

表 17 共起頻度の高い形容詞 (COSMAS II)

順位	形容詞	頻度	比率
1	gut (良い)	744	5.8%
2	einfach (簡単な)	698	5.5%
3	optimal (最善の)	527	4.1%
4	leicht (容易な)	523	4.1%
5	zufrieden (満足している)	412	3.2%
6	rosig (楽観的な)	395	3.1%
7	sicher (確実な, 確信した)	364	2.9%
8	glücklich (幸せな)	296	2.3%

上位の 6 語で、25.9% になり、フランス語 *tout sauf* ほどではないが、英語の *anything but* よりは、語彙的な偏りがあると言える。

COSMAS II では、共起分析 (Kookkurenzanalyse) を行うことができる。これを、*alles andere als* に対して行った。共起範囲は、左は 0 語、右は 3 語までにした。COSMAS II の共起分析では、検索語が複数の語からなる場合には、その最初の語を基準としているので、*alles andere als* の直後の語を分析するためには、*alles* の右 3 語までと設定しなければならないからである。その結果から、*andere*, *als*, 不定冠詞 *ein* を除くと、上位には形容詞のみが残った。

表 18 対数尤度比の高い形容詞 (COSMAS II C2)

順位	形容詞		対数尤度比	頻度
1	rosig	(楽観的な)	5049	394
2	optimal	(最善の)	5031	529
3	einfach	(簡単な)	3140	699
4	leicht	(容易な)	2970	525
5	selbstverständlich	(当然の)	2567	344
6	gut	(良い)	2255	745
7	zufrieden	(満足している)	2174	412
8	glücklich	(幸せな)	2000	296
9	ideal	(理想的な)	1717	205
10	sicher	(確実な, 確信した)	1457	364

この表は対数尤度比の降順で、表 17 の形容詞は 10 位までに収まった⁹⁾。しかも、いずれも対数尤度比が高く、alles andere als とこれらの形容詞は強い共起関係にあると言える。なお、対数尤度比 5 位の selbstverständlich (当然の) が表 17 に出てきていないことについては後述する。

ここでは新聞のコーパスを使用したもので、ジャンルによる偏りがあるかもしれない。そこで、コーパス検索ツール Sketch Engine を用いてこの点を確認した。2013 年にドイツ語のウェブから採取されたコーパス deTenTen13 で、alles andere als に後続する語を頻度順にソートし、形容詞だけを取り出した。

表 19 共起頻度の高い形容詞 (deTenTen13)

順位	形容詞		頻度
1	einfach	(簡単な)	10,206
2	gut	(良い)	10,187
3	leicht	(容易な)	6,413
4	begeistert	(感激した)	4,262
5	optimal	(最善の)	3,690
6	langweilig	(退屈な)	3,463
7	rosig	(楽観的な)	3,055
8	selbstverständlich	(当然の)	2,808
9	sicher	(確実な, 確信した)	2,612
10	schön	(美しい)	2,550
11	glücklich	(幸せな)	2,197
12	zufrieden	(満足している)	2,161

表 17 の 8 つの形容詞は、12 位までに収まっており、ウェブでも alles andere als との共起頻度

が高い。次に、対数尤度比の降順にソートして、形容詞だけを取り出すと、以下のようになった。

表 20 対数尤度比の高い形容詞 (deTenTen13)

順位	形容詞		対数尤度比	共起頻度	単独頻度
1	einfach	(簡単な)	65,026.59	10,206	12,194,937
2	gut	(良い)	59,585.56	10,187	15,875,070
3	leicht	(容易な)	51,730.47	6,413	3,232,708
4	rosig	(楽観的な)	49,156.35	3,055	29,028
5	begeistert	(感激した)	40,505.23	4,262	1,040,441
6	langweilig	(退屈な)	38,172.55	3,463	395,176
7	optimal	(最善の)	37,552.46	3,690	642,649
8	selbstverständlich	(当たり前の)	24,717.83	2,808	971,312
9	glücklich	(幸せな)	19,221.42	2,197	779,799
10	angenehm	(快い)	18,055.26	1,932	508,298
11	zufrieden	(満足している)	16,581.79	2,161	1,316,923
12	schön	(美しい)	15,788.56	2,550	3,289,780
13	sicher	(確実な、確信した)	14,276.84	2,612	4,880,541

やはり、表 17 の形容詞は、13 位までに収まっており、ウェブでも、alles andere als との共起関係が強い。

表 17 に戻って、個々の形容詞を見ていく。1 位が gut (良い) であるのは、もともと単独でも使用頻度が高い形容詞であることが影響していると思われるが、対数尤度比もかなり高いので、共起関係は強いと言える。

(39) Die Prognosen waren tatsächlich alles andere als gut. (COSMAS II A10)

予測は実際に少しも良くなかった。

また、これと類似した意味の optimal (最善の) が上位に入っていることは、alles andere als が良さを表す形容詞と親和性が高いことを示唆している。

(40) Doch die Voraussetzungen am Spieltag waren alles andere als optimal. (COSMAS II A10)

しかし、試合当日の状況は少しも最善ではなかった。

einfach (簡単な) と leicht (軽い、容易な) は、フランス語の simple (簡単な) や facile (容

易な), 英語の easy や simple と類義的である。

- (41) Raben zu schießen, ist aber alles andere als einfach. (COSMAS II A10)

カラスを撃つのは, しかし少しも簡単なことではない。

- (42) Die Entscheidung war alles andere als leicht. (COSMAS II M11)

決定は少しも容易ではなかった。

zufrieden (満足している) と glücklich (幸せな) も意味が似ている。特に, glücklich (幸せな) は, 感情の対象を示す前置詞 über, あるいはこの前置詞と代名詞の融合形 darüber と用いられていることが多く, zufrieden (満足している) に意味的に一層近くなる。

- (43) Trotzdem war der Coach alles andere als zufrieden. (COSMAS II HMP10)

それにもかかわらず, コーチは少しも満足していなかった。

- (44) Darüber schien Misimovic alles andere als glücklich. (COSMAN II BRZ10)

ミシモヴィッチは, それに少しも満足していないよう見えた。

以上見てきた通り, alles andere als に後続する形容詞には, 語彙的に偏りがあり, 意味的にも類似したものが見られる。

《alles andere als + 形容詞》のパターンの検索では, 形容詞が後続する名詞を修飾するものも含む。しかし, ドイツ語では, 叙述用法 (ドイツ語学では「述語的用法」) の形容詞は基本形のままだが, 限定用法 (ドイツ語学では「付加語的用法」) の形容詞は性・数・格により変化して語尾を取るの, 形態で区別することが可能である。出現頻度の高い形容詞を見ると語尾がなく, 叙述用法であると判断できる。語尾を伴った形容詞は頻度がかなり低い。つまり, 限定用法の割合はかなり少ないのである。ここでは, 限定用法については取り上げない。

上述の通り, Sketch Engine の deTenTen13 で検索にかかった selbstverständlich (当然の) が, COSMAS II の TAGGED-C2 では検索にかからなかった。実は, TAGGED-C2 の alles andere als selbstverständlich の用例においては, この語は全て副詞としてタグ付けされていたために, 《alles andere als + 形容詞》のパターンの検索ではかからなかったのである¹⁰⁾。ドイツ語においては, 形容詞はそのまま副詞として転用可能で, selbstverständlich は「当然」という意味の副詞として頻繁に用いられるために, このようなタグ付けになったのだろうと推測される。しかし, alles andere als selbstverständlich を検索すると, 344 件ヒットし, 実際の用例を見ると, 形容詞として用いられている。

- (45) Reisen ins Ausland waren für die Deutschen in den 1930er Jahren alles andere als

selbstverständlich. (COSMAS II BRZ11)

外国への旅行は、1930 年代のドイツ人にとっては少しも当たり前ではなかった。

よって、selbstverständlich（当たりの）も alles andere als と共起頻度の高い形容詞に入る。

4.2. 不定冠詞付き名詞

《alles andere als + 冠詞 + 名詞》のパターンで検索したところ、3398 例ヒットした。冠詞の種類によって分類して集計すると、以下の表ようになる。

表 21 冠詞の種類毎の頻度

冠詞	頻度	比率
不定冠詞	3067	90%
定冠詞	261	8%
前置詞と定冠詞の縮約形	70	2%

ここでは大部分を占める不定冠詞付きの名詞を取り上げる。不定冠詞付きの名詞で特に共起頻度の高いものは、以下の通りである。

表 22 出現頻度の特に高い不定冠詞付き名詞

順位	名詞		頻度	比率
1	Sieg	(勝利)	484	15.8%
2	Selbstläufer	(ほっておいてもうまくいくもの)	110	3.6%
3	Niederlage	(敗北)	82	2.7%
4	Spaziergang	(散歩)	70	2.3%
5	Erfolg	(成功)	53	1.7%
6	Selbstverständlichkeit	(当たりのこと)	51	1.7%

1 位の Sieg（勝利）が群を抜いて多いが、スポーツに関する記事が多い。用例を見ていくと、構成的な用例ばかりで、成句的な用例が見当たらない。

(46) Alles andere als ein Sieg wäre eine Enttäuschung.

(COSMAS II NON10, RHZ10, SOZ10, BRZ11, NON11, RHZ11, A12, BVZ13, RHZ13)

勝利以外なら全て失望だろう。

(47) Alles andere als ein Sieg ist für mich inakzeptabel. (COSMAS II RHZ14)

勝利以外は全て私には受け入れられない。

3位の Niederlage（敗北）は、1位の Sieg（勝利）の反意語であり、やはり、構成的なものばかりである。5位の Erfolg（成功）は、成句的な用例もわずかにあったが、構成的な用例が多かった。

他方、2位の Selbstläufer（ほっておいてもうまくいくもの）については、用例を見ると成句的である。

- (48) Die geplante Kandidatur der Gattin des Altkanzlers für den niedersächsischen Landtag ist alles andere als ein Selbstläufer (COSMAS II BRZ12)

元首相夫人の予定されているニーダーザクセン州議会への立候補はほっておいても少しもうまくいくものではない。

4位の Spaziergang（散歩）の用例も成句的である。

- (49) Feuerwehrarbeit ist alles andere als ein Spaziergang, das erlebten Politiker & Journalisten am eigenen Leib. (COSMAS II NON13)

消防の仕事は少しも散歩ではない。そのことを政治家たちとジャーナリストたちが身を以て体験した。

ここでは、Spaziergang（散歩）は文字通りの意味ではなく、比喩的に容易にできることを表している。Selbstläufer（ほっておいてもうまくいくもの）と Spaziergang（散歩）は、容易さを表す表現であり、フランス語の tout sauf に後続する partie de plaisir（苦もなくやれること）や long fleuve tranquille（長く静かな川）と類似している。Selbstläufer（ほっておいてもうまくいくもの）と Spaziergang（散歩）の使用は、容易さを表す形容詞に促されたものではないかと考えられる。

6位の Selbstverständlichkeit（当たり前のこと）の場合には、alles andere als は成句的に用いられている。

- (50) Ein bis auf den letzten Platz volles Kino an einem Freitagmorgen um 11 Uhr ist auch bei einem alteingesessenen Filmfestival alles andere als eine Selbstverständlichkeit. (COSMAS II T12)

古くからの映画祭においても、金曜日の午前 11 時に最後の一席まで一杯の映画館というのは少しも当たり前のことではない。

Selbstverständlichkeit（当たり前のこと）の使用は、selbstverständlich（当たり前の）に促さ

れていると考えられる。

以上より、成句的な *alles andere als* とよく用いられる不定冠詞付き名詞は、*Selbstläufer* (ほっておいてもうまくいくもの)、*Spaziergang* (散歩)、*Selbstverständlichkeit* (当たり前のこと) であると言える。また、それぞれ、形容詞の場合から使用が促されていると考えられる。

4.3. 無冠詞名詞

《*alles andere als* + 名詞》のパターンを検索した。その結果、延べ語数 1010、異なり語数 609 の共起語が得られた¹¹⁾。共起頻度は高くないが、上位のものを挙げると以下の通りである。

表 23 出現頻度の高い無冠詞名詞

名詞	頻度	比率
Zufall (偶然)	23	2.3%
Routine (いつものこと)	19	1.9%
Einigkeit (意見の一致)	18	1.8%

1 位の *Zufall* (偶然) は、フランス語で *tout sauf* に続く不定冠詞付き名詞で多かった *hasard* (偶然) と意味が近い。

- (51) *Es ist alles andere als Zufall, dass so viele Spitzenpolitiker schwer erkranken.* (COSMAS II HMP13)

これほど多くのトップクラスの政治家が重病になるのは、少しも偶然ではない。

2 位の *Routine* (いつものこと) は、英語で *anything but* に後続する無冠詞名詞で最も頻度の高い *routine* と同語源である。

- (52) *Was sie im Lauf des Tages auf den Bildern entdeckten, war dann freilich alles andere als Routine.* (COSMAS II U12)

彼らがその日のうちに写真に見つけたものは、もちろん少しもいつものものではなかった。

以上のように、無冠詞名詞については、出現頻度は高くないが、フランス語や英語と似た語が見られた。

4.4. 前置詞

alles andere als に前置詞が後続する場合を調べるために、《alles andere als + 前置詞》のパターンを検索した。しかし、alles andere als の後では、前置詞が誤って副詞としてタグづけされている場合があることが判明した。そこで、《alles andere als + 副詞》のパターンも検索し、両方の検索結果を統合した上で、特に出現頻度の高い以下の表現を割り出した。

表 24 共起頻度の高い前置詞で始まる表現

前置詞句	頻度
nach Wunsch (望み通りに)	73
nach Plan (計画通りに)	37
auf Rosen gebettet ¹²⁾ (バラの上に横になって)	18

1 位の nach Wunsch (望み通りに) と 2 位の nach Plan (計画通りに) が群を抜いて多い。alles andere als nach を検索すると 132 件なので、nach (～通りに) に後続する語の中で Wunsch (望み) と Plan (計画) の割合は極めて高い。

表 25 alles andere als nach に後続する語

前置詞句	頻度	比率
Wunsch (望み)	73	55%
Plan (計画)	37	28%

alles andere als nach Wunsch のほとんどが、verlaufen (経過する) あるいは laufen (進行する) と共起していた (それ以外は、beginnen (始まる) あるいは starten (始まる) と共起していた)。

(53) Der Start verlief jedoch alles andere als nach Wunsch. (COSMAS II NON13)

スタートはしかしながら少しも望み通りには行かなかった。

これは、nach Wunsch verlaufen/laufen (望み通りに経過する／進行する) というよく使われるコロケーションに基づいている。しかも、このコロケーションは、否定でしばしば用いられる¹³⁾。このため、alles andere als が nach で始まる表現の中で特に nach Wunsch と極めて高い割合で共起する基盤になっていると考えられる。

同様に、alles andere als nach Plan も、やはり、ほとんどが、verlaufen (経過する) あるいは laufen (進行する) と共起していた (それ以外は、beginnen (始まる), starten (始まる), gehen (進行する) と共起していた)。

- (54) Die erste Hälfte verlief alles andere als nach Plan. (COSMAS II BRZ12)

前半は少しも計画通りには行かなかった。

これも, nach Plan laufen/verlaufen (計画通りに進行する／経過する) という否定と相性の良いコロケーションに基づいていると考えられる¹⁴⁾。

3位は auf Rosen gebettet (バラの上に横になって) である。alles andere als auf を検索すると, 62件なので, そのうちの3割近くに当たる。auf Rosen gebettet は, 名詞を修飾する1例を除いて, sein 動詞 (英語の be 動詞に相当) と共に使用されており, また, 頻繁に副詞的用法の形容詞 finanziell (財政上) を伴っている。これは, 安楽な生活をしていることを表す比喩表現である¹⁵⁾。

- (55) Doch die Kommunen sind finanziell alles andere als auf Rosen gebettet. (COSMAS II RHZ12)

しかし地方自治体は財政上少しも余裕がない。

この比喩的なコロケーションも否定と相性が良く¹⁶⁾, このことが, alles andere als に後続する auf で始まる表現の中で特に auf Rosen gebettet の割合が高いことの背景になっていると考えられる。

以上のように, alles andere als が前置詞で始まる表現の前に付くようになるために, 否定と相性の良い幾つかのコロケーションが足掛かりになっているようである。

4.5. alles andere als についてのまとめ

ドイツ語の alles andere als に後続する形容詞では, 語彙的な偏りが見られ, また, 類似した意味の語が見られる。特に, einfach (簡単な) や leicht (容易な) の共起頻度が高いことは, フランス語や英語と同様の傾向である。不定冠詞付き名詞については, Selbstläufer (ほっていてもうまくいくもの) や Spaziergang (散歩) の共起頻度が高いのは, 容易さを表す形容詞に促されているものと考えられる。また, Selbstverständlichkeit (当たり前のこと) の頻度が高いことも, selbstverständlich (当たり前の) に牽引されていると考えられる。

無冠詞名詞では, フランス語や英語と類似した語が見られた。

前置詞で始まる表現では, 否定辞 nicht とよく用いられるコロケーションが高頻度で共起していた。

5. まとめ

近年、フランス語において、強い否定を表す成句 tout sauf の使用が増加している。この成句はしばしば形容詞を従えるが、あらゆる形容詞と同じように使われているのではなく、anodin（些細な）などの特定の形容詞と好んで使われている。また、容易さや重要度の低さなどを表す形容詞と共起しやすい。名詞句を従える場合も、une surprise（驚き）や un hasard（偶然）と言った特定の名詞句と頻繁に使われる。また、それ以外でも、容易さや重要度の低さを表す語句がよく使われる。

英語の成句 anything but は、フランス語の tout sauf と比べると、共起する形容詞に語彙的な偏りが少ない。しかし、かつては特定の形容詞との共起頻度が高く、これらが《anything but + 形容詞》の増加を牽引したことが窺われる。また、容易さを表す形容詞の共起頻度が高いのは、フランス語の場合と類似している。

ドイツ語の alles andere als に後続する形容詞にも、語彙的な偏りが見られる。やはり、共起頻度の高い形容詞には、容易さを表すものが含まれる。また、共起頻度の高い名詞句も、形容詞に牽引されていると考えられる。

フランス語の tout sauf は、最近、出てきたばかりの成句であり、特定の語彙との結びつきが強く、また、類似した意味の場合に用いられやすい。しかし、英語の anything but は、以前から用いられてきた成句であり、かつては語彙的な偏りがあったが、現在ではさまざまな語彙に同じように適用される成句となっている。ドイツ語の alles andere als は、tout sauf より古い成句であるが、語彙的な偏りがあり、英語の anything but のような段階に至っていない。

注

- 1) <https://books.google.com/ngrams>。
- 2) <http://www.lexisnexis.com/ap/academic/>。
- 3) <https://www.sketchengine.eu>。
- 4) 対数尤度比については、Dunning (1993) を参照されたい。
- 5) anodin は、近年、使用が急増している形容詞であり、また、否定で用いられることが多い。以下は、Google Ngram Viewer による anodin 単独と否定辞 pas を伴った anodin の相対頻度の変化のグラフである (smoothing は 3)。

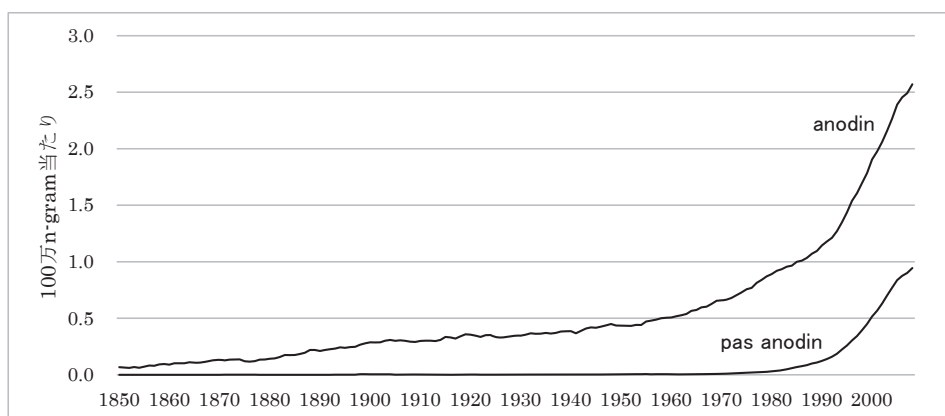


図 anodin と pas anodin の相対頻度の変化 (Google Ngram Viewer)

また, frTenTen17 で anodin を変化形も合わせて検索すると, 16191 件ヒットするが, そのうちの 38% に当たる 6149 件が直前に否定辞 pas を伴っていた。特に否定を伴って使用が増加したことが, tout sauf との使用の増加にも繋がっていると考えられる。

- 6) <https://www.english-corpora.org/coca/>.
- 7) <https://www.english-corpora.org/coha/>.
- 8) COHA や Ngram Viewer で見ると, anything but routine は 20 世紀後半以降に使用が増加している。
- 9) 頻度に差があるのは, 表 17 は《alles andere als + 形容詞》のパターンの検索結果を元に行っているのに対して, 表 18 は alles andere als の検索結果を元に行っているからである。
- 10) ただし, selbstverständlich の変化形は, 《alles andere als + 形容詞》のパターンの検索で, 合計 11 件ヒットしている。
- 11) ヒットした共起語を見ると, fad (つまらない) や öko (エコな) など, 名詞でないものが散見される。よって, 名詞の延べ語数および異なり語数は, より少なくなる。
- 12) ただし, auf Rosen gebettet は, 名詞を修飾しているために変化語尾のついた gebettete の 1 例, および, おそらく誤植と思われる gebetet の 1 例を含む。
- 13) nach Wunsch 自体を検索して共起分析を行ったところ, laufen, verlaufen, nicht との対数尤度比が大きかった。また, 以下のような顕著な統語パターンが得られた。
 - (i) lief [es ... nicht] nach Wunsch
 - (ii) verlief [... nicht] nach Wunsch
 このことは, nach Wunsch verlaufen/laufen (望み通りに経過する／進行する) というコロケーションが定着しており, また, 否定辞 nicht とよく共起することを示している。
- 14) nach Plan を検索して共起分析を行ったところ, laufen や verlaufen との対数尤度比が高かった。このことは, nach Plan laufen/verlaufen (計画通りに進行する／経過する) というコロケーションが定着していることを示している。また, 否定辞 nicht との対数尤度比も高く, 強い共起関係にある。
- 15) 英語の bed of roses も類似の比喩表現である。
- 16) auf Rosen gebettet を検索して, 共起分析を行ったところ, finanziell, nicht, sein との対数尤度比が高かった。

参考文献

Dunning, Ted (1993) "Accurate Methods for the Statistics of Surprise and Coincidence", *Computational Linguistics*, 19 (1), 61-74.

- Giannakidou, Anastasia (2002) "Licensing and Sensitivity in Polarity Items: from Downward Entailment to (Non) veridicality", *CLS*, 38, 29-53.
- Harweg, Roland (2014) *Studien zum Verbum und seinem Umfeld*, Berlin: LIT Verlag.
- Langacker, Ronald W. (2000) "A Dynamic Usage-Based Model", in Michael Barlow and Suzanne Kemmer (eds) *Usage-Based Models of Language*, pp.1-63. Stanford: CSLI Publication.
- Muller, Claude (1991) *La négations en français*, Genève: Droz.
- OED2 = The Oxford English Dictionary* (1989) 2nd edition, Oxford: Oxford English University Press.
- Piot, Mireille (2005) "Sur la nature des fausses prépositions *sauf* et *excepté*", *French Language Studies*, 15, 297-314.

French *tout sauf*, English *anything but*, German *alles andere als*

Tohru HIRATSUKA

Abstract

In French, a new idiom *tout sauf* expressive of strong negation has come into increasing use. This idiom is similar to the English and German idioms *anything but* and *alles andere als* in both structure and meaning. This paper investigates the frequencies of co-occurrence between these three idioms and the words that follow them. This is the first such study of any of the three idioms.

We conclude the following: French *tout sauf* co-occurs frequently with specific words. These co-occurrences play an important role in the increased use of *tout sauf*. English *anything but* similarly started with frequent co-occurrence with specific words, but these connections have since weakened. Finally, German *alles andere als* has been used longer than *tout sauf*, but it retains strong connections with specific words and has not yet reached the same stage as *anything but*.

Keywords: idiom, strong negation, corpus, frequency of co-occurrence, log-likelihood ratio